

# TOPICS 3

## トピックス…③

# 『生乳生産管理チェックシート』と『牛群検定』を活用しよう！

## ～牛群検定の試行農家の募集について～

一般社団法人家畜改良事業団

牛群検定は、毎月1回、検定員が酪農家の搾乳に立ち会って、1頭ごとに乳量を計測して、繁殖状況や飼料給与等を調査するものです。もちろん、乳成分サンプルも1頭の搾乳ごとに採取し、乳成分、体細胞数、MUNなどを詳細に検査します。牛群検定は、以前は遺伝的改良のイメージが強かったのですが、現在は検定後1週間程度で牛群検定成績が手元に届きますので、広く飼養管理、衛生管理、繁殖管理に役立てられるようになってきました。特に、中央酪農会議のすすめる『生乳生産管理チェックシート』と併用すれば、まさに鬼に金棒といっても過言ではないでしょう。

例えば、体細胞数が高く、ペナルティーの対象となってしまう農家を例にします。『生乳生産管理チェックシート』をしっかりと記帳していれば、ミルクの洗浄状況やディッピング剤の管理、ライナー交換といった管理状況を見直すことができたいへん有効です。しかし、こういった管理面での改善が出荷乳の体細胞数の削減という具体的な効果に現れるには時間を要してしまいます。その点、牛群検定では冒頭に記したとおり、1頭ごとに乳成分サンプルを採って検査していますので、直接、出荷乳の体細胞数を削減することが可能となります。

図に毎月検定農家に送付される牛群検定成績表の体細胞数の部分のみを表示しました。この図からは、牛コード150号と163号の体細胞数が高いことが容易にわかります。このように問題のある牛の把握は至って簡単です。さらに、牛群検定では、「高体細胞影響率」という表示があります。これは、例えば図中の150号牛は30%と表示されています。高体細胞影響率30%とは、この150号牛の生乳を出荷乳に合乳せず、廃棄してしまえば出荷乳の体細胞数が30%削減されるという意味になります。163号牛には28%と表示されていますから、150号牛と163号牛の2頭の生乳を廃棄すれば、出荷乳の体細胞数は、 $30 + 28 = 58\%$ も減る、半分に以下になる、という意味です。PLテスター等の検査薬で乳房炎罹患を知ることはできますが、このように出荷乳の調整まで出来るのは牛群検定ならではのことで

また、特に体細胞数の高い150号牛は、前々月の検定では225千/mlと正常だったものが突然に5086千/mlと増えています。このことは、体細胞数がじわじわ上がってくる潜在性の乳房炎ではなく、急性のものであることがわかります。こういった場合の原因は、不衛生な搾乳

機器の管理であったり、搾乳の順番、糞尿で汚れた牛床などであることが多く、やはり『生乳生産管理チェックシート』で状況を確認することが望まれます。以上、体細胞数を事例に、牛群検定の活用事例を紹介しました。体細胞数と乳房炎の関係以外でも、ルーメンアシドーシスやケトosis、繁殖障害といった周産期病も広く改善することができます。もちろん、『生乳生産管理チェックシート』をしっかりと記帳していれば、さらに多くの改善を行うことができます。

さて、家畜改良事業団では、牛群検定未加入農家を対象に乳用牛改良対策事業（通称「牛群検定の試行」）を実施し、牛群検定への加入促進を図っており、参加農家を募集しています。牛群検定の試行では、牛群検定にかかる費用（サンプル検査料、検定員経費、農家指導費など）を最大6ヶ月間助成しますので、無料で牛群検定を体験できるものです。牛群検定を実施することで、飼養管理を改善し、前述のように乳房炎をはじめとする「予防できる周産期病」も数多くあります。是非とも牛群検定加入の推奨をお願い致します。

なお、本事業は平成11～19年度まで補助事業で実施されていたもので、ご参加頂いた農家の継続率が80%以上と極めて高いことから、補助事業が終了したのちは当団が独自財源で実施しているものです。

詳しい要領は、家畜改良事業団ホームページ <http://liaj.lingr.jp/>、または「牛群検定の試行」で検索してください。

### 牛群検定成績表の体細胞数の活用

牛コード	体細胞		
	高体細胞影響率	体細胞数 (千/ml)	
	今月 (千/ml)	前月	前々月
0173	52	40	46
0182	72	95	159
0152	147	137	230
0150	▲3684 (30)	▲5086	225
0170	55	43	57
0163	▲3864 (28)	▲682	▲794
0171	▲489	2	▲302